

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

科目名	社会福祉論		科目ナンバリング	K01D21001	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力</li> <li>◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</li> <li>○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力</li> <li>○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力</li> </ul>				

《授業の概要》

いま医療も福祉も利用者の自己決定権を尊重し、その生活を支援をしていくことが求められている。社会福祉は、人々がいかなる状況に置かれようとも、より良き生活が確保されることを保証していくための方法であり、そのためには彼らのニーズを全人格的にとらえることが不可欠な要素となる。社会福祉論では、医療チームの一員として人々に関わる看護師に不可欠な社会福祉の視点、支援方法について学ぶ。

《テキスト》

系統看護学講座 専門基礎分野  
社会福祉—健康支援と社会保障制度③— 医学書院 2015

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座4  
現代社会と福祉—社会福祉原論 中央法規出版 2009

《授業の到達目標》

- ①我々を含め、利用者が持つ生活課題を多面的に分析、理解できるようにする。
- ②利用者の生活を支援することと、看護がどのように関わるかが理解できるようにする。
- ③対人援助専門職に不可欠な価値態度が理解でき、人の全人格的な痛みに対する共感性を養うことができる。

《授業時間外学習》

常に社会の動き、医療の動き、社会福祉の動きに関心を持つべく、新聞、専門雑誌に目を通すこと。原則シラバスと教科書に沿って授業を進めます。授業の該当箇所はあらかじめ目を通して授業に参加してください。

《成績評価の方法》

講義への出席は必須とする。成績評価は、受講態度、定期試験、課題レポート等の提出でおこない、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題レポート等20%とする。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

授業時間中の質問は大歓迎です。わかるまで聞いてください。自分だけがと思わないで、授業に参加してください。遅刻、私語、携帯の操作は禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉を学ぶ	貧困とは、社会福祉援助とは、社会福祉の必要性とは、社会福祉の今日的意味とはなど、社会福祉を学ぶ上での基本的概念について学習する。
2	社会福祉の歴史的発展と課題	社会福祉のこれまでの発展過程でみられた問題の整理をし、社会福祉が現代社会でどのような役割、どのような専門性を期待されているのかを概観する。
3	現代社会の変化と社会福祉、社会保障の動向	大きく変化した現代社会で、社会福祉が求められた変化と、生活問題に対応する社会保障制度が果たすべき役割と課題について学習する。
4	生活に関わるの医療保障制度と健康保険	医療保障制度としての健康保険制度が我々の健康を守り、保険事故(疾病状況)が起こった時にはどのように対応がなされるのかを学習する。
5	生活にかかわるその他の保障制度	高齢、災害、失業など、疾病以外で、我々の経済状況に大きな影響を及ぼす問題に対応する社会保障の仕組みと施策について学ぶ。
6	貧困と社会福祉	現代社会の新しい貧困の実情、セーフティネットとしての所得補償と公的扶助の現状を学ぶことで、社会福祉支援の在り方を検討する。
7	次世代を担う子供たちの福祉	地域、家族の介護力、教育力、保育力が著しく衰退している現代社会の中で、子供たちの人権を守り、子供たちの福祉を確保していくためには何が必要かを検討する。
8	超高齢社会と介護保険	人口減少に歯止めがかからないわが国での、高齢社会対策がどのようになされ、介護保険がどのような役割を果たしているのかを学ぶ
9	障害を持つ人々を支える福祉 その1	社会福祉 6法に規定されている身体障害者福祉法、知的障害者福祉法での障害者支援の現実と問題点について学ぶ。
10	障害を持つ人々を支える福祉 その2	障害者総合支援法、精神障害者福祉法、発達障害者支援法という後発の障害者支援の法律での支援の現状と課題について学ぶ。
11	社会福祉援助の方法 その1 個別援助技術	個人や家族を対象とした社会福祉援助技術であるケースワーク、カウンセリングについて、特に近年要求される、エビデンスに基づいた支援の在り方について学ぶ。
12	社会福祉援助の方法 その2 集団援助技術	当事者グループや子供たちのグループ支援をはじめとして、集団過程を通じての支援が有効な人々を対象とした援助技術であるグループワークについて学ぶ。
13	社会福祉援助の方法 その3 ケアマネジメント	介護保険のサービス提供の方法として認知されたケアマネジメントは、本来種々の領域での複雑化した問題を持つ利用者支援に優れた方法である。その支援の仕組みを学ぶ。
14	社会福祉援助の方法 その4 その他の援助技術	専門職がその能力を発揮するにはスーパービジョンが、また自分の支援の効果を評価するためには調査という技術が必要とされる。ここではその内容について学ぶ。
15	社会福祉・看護実践でのチームアプローチと連携	人を支援する仕事を現すキーワードには、チームケア、連携、協働という語があげられる。ここでは医療現場、福祉現場、地域での連携、チームケア、協働について学ぶ。

科目名	家族関係論	科目ナンバリング	K01D21003
担当者氏名	竹内 一夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力</li> <li>○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力</li> <li>◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力</li> <li>○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</li> </ul>		

《授業の概要》

現代家族は、少子・超高齢社会の中で、伝統的に培ってきた様々な機能が果たせなくなるとともに、DV、非行、虐待、介護問題、離婚率の増加など、様々な新しい問題を抱えてきている。ここでは家族の機能、構造を考えるとともに、現代家族の抱える問題についても検討を加え、看護師として必要な家族ケアの視点を養うとともに、家族支援の在り方、個々の患者へのアプローチ方法についても検討を加える。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎分野「家族論・家族関係論」医学書院 2015

《参考図書》

千田有紀「日本型近代家族—どこからきてどこに行くのか」勁草書房 2011

《授業の到達目標》

- ①現代家族の直面している問題を理解できるようになる。
- ②地域社会や社会構造の変化と関連だてて、家族が直面している問題を理解できるようになる。
- ③家族内での人間関係（夫婦、親子）の形成と、維持について理解できるようになり、解決課題へ取り組む家族の保持力を、家族の発達段階に合わせて理解できるようになる。

《授業時間外学習》

報道などに常に興味を払い、家族に関わる問題が提起されている状況に必ず目を通しておくこと。また各自の地域の中で地域社会と家族の関わり合いがみられる行事などが存在するかどうか、またそれへの参加状況に注目しておくこと。授業はシラバスに準じて行われるので、教科書には目を通して出席すること。

《成績評価の方法》

この授業での評価は、受講態度、定期試験、課題達成の3項目で行う。その関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%とし、その合計で、評価点とする。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

授業への積極的関与を歓迎する。質問は授業中でも歓迎する。理解できるまで質問すること。授業への遅刻、授業中の私語、携帯の使用は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族を考える	家族をめぐる諸概念の検討と、現代家族の直面している問題を概観する。
2	家族の発生—パートナー選択と結婚—	家族発生の出発点である配偶者の選択がどうなされ、夫婦関係がどのように形成されて行くのかを検討する。
3	夫の役割、妻の役割	伝統的な家族から現代家族まで、その役割は社会の変化とともに変化してきている。今家族はどこに向かって進もうとしているのかを検討する。
4	父なること、母になること	DINKと DEWK、子育てでの夫婦の役割、地域の役割、祖父母の役割について考える。
5	子供の成長と父母の役割	夫と妻から、父親と母親へ、そして祖父と祖母へ、夫婦の成長の過程と老いの過程、そこでの対処課題について検討する。
6	夫婦での看取りと、両親の看取り	必然のこととして、家族というシステムも老いの過程を経て、看取りの過程に直面し、消滅していく。現代社会における看取りの過程での問題点についても検討を加える。
7	伝統的な家族機能と現代家族	伝統的な家族機能から現代家族までの家族機能とそこでの人間関係の特徴を検討する。
8	社会の変化と都市型家族の問題点	地域機能が衰退化してきている現代都市社会において、縮小した家族機能で生活問題に対処を迫られている現代家族の問題点と地域の福祉社会化について検討する。
9	家族員が病んだ時	患者家族としては、どのような精神的、肉体的問題に直面するのか、患者との人間関係、家族間の人間関係にどのような変化が起こるのかを概観する。
10	在宅ケアでのストレスマネジメント	患者へのケアの質を高めるとともに、家族の生活の質を高める家族のストレスマネジメントと課題への対処力の保持について検討する。
11	家族支援者に必要な専門職としての態度	バイスティックの7原則を基本として、対人援助の専門職に必要な価値、態度を学ぶ。
12	家族支援の方法—システム理論からのアプローチ	家族療法の中でシステム理論を用いたシステムズアプローチの概要、アセスメントの方法を学ぶ。
13	家族支援の方法—家族の発達段階と危機の理解	家族問題を理解するために必要な、家族の発達段階および各段階で遭遇する可能性の高い危機状況についての理解、それへの対処方法を学ぶ。
14	家族支援の方法—教育的アプローチ	家族の課題への対処能力がある程度認められる場.に、プログラム化された訓練としてそれらの能力を強化していく教育的プログラムについて概観する。
15	家族支援の方法—心理学的アプローチ	家族援助の心理的諸技法について概観し、援助方法による関わり方の差異、評価方法の特徴を学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目 I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	精神保健	科目ナンバリング	K01F21004
担当者氏名	南川 博康		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</li> <li>○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力</li> <li>○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力</li> <li>○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力</li> <li>◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力</li> </ul>		

《授業の概要》

成長発達段階や各人の健康レベルに応じた心理状態を、その人だけでなく周りの生活を含めた幅広い視点から捉え、看護に必要な援助的人間関係について理解を深める。

《テキスト》

精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版

《参考図書》

《授業の到達目標》

さまざまな視点から心の健康を理解し、健康の保持・増進についての的確な指示ができる。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70% 平常評価30%(レポート、受講態度など)  
分からないことは随時質問を受け付ける。  
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

将来メンタルヘルスに関わらなくても、看護という特殊な専門職を志す人々には病者を全人的に看ていこうとする上で、是非とも修得して頂きたい学問であろう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神の健康	精神障害の一次・二次・三次予防、精神力動論
2	精神の健康	フロイト・エリクソンの発達論、自我機能（防衛機制）、集団力動論
3	リエゾン精神看護	病気と心理社会的反応、身体疾患を持つ人の心の健康
4	リエゾン精神看護	患者家族の心の健康、看護の精神の健康
5	精神保健と社会	家族・家庭の精神保健
6	精神保健と社会	学校と精神保健
7	精神保健と社会	職場における精神保健
8	精神保健と社会	社会資源の活用とケアマネージメント、社会復帰、
9	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉の歴史
10	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉に関する法制度
12	精神科チーム医療	クリニカルパス、SDM（シェアード・デジジョンメイキング）
13	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（危険ドラッグ、ギャンブル依存症、周産期のメンタルヘルス）
14	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（自殺、PTSD、宗教体験など）
15	総括	精神保健の総括

《専門教育科目 専門基礎科目 II 群（人体の構造と機能）》

科目名	生物基礎		科目ナンバリング	K02B11001	
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul>			

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。  
(アチーブメントテスト70%、平常点30%)  
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝Ⅱ 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」  
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生——生命活動の舞台裏」  
永田和宏（岩波新書）  
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）  
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）  
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻  
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《専門教育科目 専門基礎科目 II 群（人体の構造と機能）》

科目名	生物基礎		科目ナンバリング	K02B11001	
担当者氏名	立谷 正樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul>			

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。  
(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝Ⅱ 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」  
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生——生命活動の舞台裏」  
永田和宏（岩波新書）  
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）  
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）  
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻  
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

科目名	化学基礎		科目ナンバリング	K02B11002
担当者氏名	谷口 武、立谷 正樹、天野 智博			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力			

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)  
分らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	物質の探求・構成粒子	物質を構成する原子と原子の構想、電子配置など
2	物質と化学結合	イオン結合や共有結合などいろいろな結合
3	物質質量	原子量と分子量、式量、モル
4	溶液の濃度	質量パーセント濃度、モル濃度
5	化学反応	化学変化における反応物と生成物の関係、化学反応と熱エネルギー
6	酸と塩基	酸と塩基、水素イオン濃度、中和反応
7	酸化還元反応	酸化・還元とは、酸化数
8	物質の状態	状態変化、熱運動、アチーブメントテスト
9	溶液	溶解、溶解度、浸透圧とは
10	有機化合物Ⅰ	有機化合物とは、官能基
11	有機化合物Ⅱ	飽和炭化水素、不飽和炭化水素
12	有機化合物Ⅲ	アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸など
13	有機化合物Ⅳ	ベンゼン、フェノール、ニトロベンゼンなど
14	天然高分子化合物	糖類、タンパク質、核酸
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「サイエンスビュー化学総合資料」(実教出版)

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。  
「化学の基礎 化学入門コース1」竹内敬人著(岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《専門教育科目 専門基礎科目 II群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論 I		科目ナンバリング	K02C11010
担当者氏名	伊藤 純			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力			

《授業の概要》

病気のことを学ぶ前に、正常な人間の構造と機能を理解する必要があります。  
この部分をきちんと理解できているかどうか、今後の成長の大きな鍵となります。

《テキスト》

系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）

《参考図書》

みるみる解剖生理 第3版（医学評論社）

《授業の到達目標》

病理・病態の理解に必要な解剖学、生理学の基礎知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論：解剖生理の基礎知識①	細胞の構造と機能、エネルギー産生、遺伝子
2	総論：解剖生理の基礎知識②	組織学、生命維持と運動調節の概略
3	消化器①	口腔、食道、胃、十二指腸の構造と機能
4	消化器②	小腸、大腸の構造と機能
5	消化器③	肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能
6	呼吸器①	気管、気管支、肺の構造
7	呼吸器②	呼吸機能
8	血液・造血器	血液の組成と機能
9	循環器①	心臓の構造と機能
10	循環器②	血管の構造と機能
11	腎臓・泌尿器①	腎臓の構造と機能
12	腎臓・泌尿器②	体液、電解質
13	腎臓・泌尿器③	酸塩基平衡、尿路の構造と機能
14	まとめ①	消化器・呼吸器のまとめ
15	まとめ②	循環器・腎臓のまとめ



《専門教育科目 専門基礎科目 II群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論Ⅱ		科目ナンバリング	K02C11011
担当者氏名	伊藤 純			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力			

《授業の概要》

病気のことを学ぶ前に、正常な人間の構造と機能を理解する必要があります。  
この部分をきちんと理解できているかどうか、今後の成長の大きな鍵となります。

《テキスト》

系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）

《参考図書》

みるみる解剖生理 第3版（医学評論社）

《授業の到達目標》

病理・病態の理解に必要な解剖学、生理学の基礎知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自律神経	交感神経と副交感神経
2	内分泌①	視床下部・下垂体ホルモン
3	内分泌②	体液調節に関与するホルモン
4	内分泌③	甲状腺ホルモン、消化器系ホルモン
5	筋・骨格①	体幹の筋と骨格
6	筋・骨格②	上肢の筋と骨格
7	筋・骨格③	下肢の筋と骨格
8	筋・骨格④	頭頸部の筋と骨格
9	神経①	中枢神経の構造と機能
10	神経②	末梢神経の構造と機能
11	神経③	運動と感覚
12	神経④	視覚、聴覚、嗅覚、味覚
13	生殖と加齢	生殖器の構造と機能、加齢
14	まとめ①	内分泌、筋・骨格まとめ
15	まとめ②	神経、生殖と加齢まとめ

科目名	生化学	科目ナンバリング	K02X21012
担当者氏名	片山 俊郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

医療の進歩に伴い、看護師に要求される知識、技術は高レベルのものとなり、知識の詰めだけでは得るものが限られる。生化学の本質は、全ての医療医学の基本で、正しく理解し応用することで、疾患の病因・病態の解明と合理的な治療の実践が初めて可能と成る。講義では、ヒトが食物からエネルギーを取り出して、それを利用して生命活動を営むための基本的な原理と代謝機序を学習し、様々な疾患との関連について理解する。

《授業の到達目標》

目標1：生物の基本となる生体高分子(核酸・タンパク質(酵素)・糖質・脂質)やその構成単位(ヌクレオチド, アミノ酸, 単糖, 脂肪酸など)の基本構造や性質についての知識を習得する。  
 目標2：系統的な知識の習得により代謝機序の説明ができるように知識を構築する。  
 目標3：様々な疾患との関連について説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績は、課題レポート10%、定期試験70%、講義参加の評価20%の比率で総合評価する。  
 問題形式の課題には正確と重要度のコメントを、質問形式の課題には解答例とコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の基本構造と機能	生体細胞を構成する各種細胞内小器官の構造と機能について理解する。
2	単糖の化学的性質と反応	単糖の構造D, L-の区別、 $\alpha$ 、 $\beta$ -の区別、二糖類の構造、糖の還元性について理解する。
3	単糖と多糖類の構造と機能	多糖類の構造、デンプン、グリコーゲン、セルロース、糖の誘導体について理解する。
4	脂質の構造と機能	中性脂肪、リン脂質、糖脂質、コレステロール、リポ蛋白質の機能について理解する。
5	脂肪酸の構造と機能	脂肪酸の構造と機能について理解する。
6	アミノ酸の構造と機能	アミノ酸の構造 20種のアミノ酸の構造と性質について理解する。
7	タンパク質の構造と機能	蛋白質の1～4次構造、核酸の構成成分、DNA, RNAの構造と機能について理解する。
8	酵素の分類と性質	酵素の一般的性質、補酵素、酵素の分類について理解する。
9	解糖系における諸反応	糖質の消化と吸収、グルコースの代謝、糖新生について理解し、説明することができる。
10	クエン酸回路と酸化的リン酸化	エネルギー産生について理解し、説明することができる。
11	脂質の代謝	脂質の代謝 脂肪酸合成、 $\beta$ 酸化、コレステロール、胆汁酸の合成について理解し、説明することができる。
12	アミノ酸と蛋白の代謝	アミノ酸の代謝、蛋白質の栄養学的意義、消化と吸収、代謝について理解し、説明することができる。
13	ホルモンの構造	ホルモンの構造、生理的意義、生体内分子機能について理解し、説明することができる。
14	ホルモンの機能	ホルモンの代謝過程、分泌と制御機構、欠乏症と過剰症について理解し、説明することができる。
15	ビタミンの構造と意義	ビタミンの生理的意義・代謝過程・生体内での分子機能、欠乏症と過剰症について理解し、説明することができる。

《テキスト》

『わかりやすい生化学—疾病と代謝・栄養の理解のために』石黒伊三雄 監修 (ヌーヴェルヒロカワ)

《参考図書》

『シンプル生化学』林典夫 編 (南江堂)  
 『トコトンわかる図解基礎生化学』池田和正 著 (オーム社)

《授業時間外学習》

講義はスライドにて行い、講義ごとの資料を配布するので、テキストによる内容確認を確実にを行うために予習・復習の自己学習を行い、講義に臨む。また、講義進行に伴い実施する課題等を確実に熟し、重要事項の把握と理解に努める。

《備考》

化学反応の羅列や丸暗記でなく、統合的な理解を必要とするので、予習、復習等の自主的学習を行ってください。

科目名	栄養学（食品学を含む）		科目ナンバリング	K02C11013
担当者氏名	細川 敬三、宇野 裕美子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力			

《授業の概要》

豊かな人生にとって健康は重要な要素であり、その健康を維持・増進あるいは逆に悪化させるのは栄養である。したがって、栄養を知ることは、健康あるいは疾患時のケアを行う上で必要不可欠である。そこで本講義では、日常的に摂取する食品とその栄養素に関する基本を理解し、さらに体内での働きや健康の維持・増進、人のライフステージごとの栄養、あるいは疾病との関わりについても理解を深めることを目指す。

《授業の到達目標》

- (1) 食品とそこに含まれる栄養素の関係について説明できる。
- (2) 健康の維持・増進と栄養の関わりについて、基本的事項を説明できる。
- (3) 食事摂取基準や運動基準について意義を説明できる。
- (4) 種々の評価指標から対象者の栄養状態を推測できる。
- (5) 各ライフステージにおける生理的特徴と栄養管理について、要点を簡潔に説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)

\*分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

必要に応じて適時プリントを配付する。

《参考図書》

『食品学 I (第2版)』菅原龍幸・福澤美喜男編、建帛社  
 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』厚生労働省、第一出版  
 『栄養学 第12版』小野 章史、杉山 みち子、鈴木 志保子、外山 健二、中村 丁次、医学書院

《授業時間外学習》

復習：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

健康を考える上で、食品と栄養に関心を持つことは大切です。日常の食生活の中で「？」と感じてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに（食品成分の概要）	食品と食品に含まれる成分の概要について理解する。
2	炭水化物（糖質）	炭水化物の種類について理解する。
3	脂質	脂質の種類について理解する。
4	たんぱく質	たんぱく質の種類について理解する。
5	ビタミンとミネラル	ビタミンとミネラルの種類について理解する。
6	機能性成分	機能性成分について理解する。
7	食品の表示	食品の表示について理解する。
8	食事と食品	食品と栄養素の関係、日常の活動と栄養の関係を理解する。
9	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	食物の消化、栄養素の吸収、栄養素の代謝、食品のエネルギー、体内のエネルギーについて理解する。
10	食事摂取基準と健康づくり	食事摂取基準、運動指針を理解し、生活習慣病の予防、健康づくりに活かす方法を考える。
11	ライフステージと栄養①	妊娠・授乳期の栄養の重要性について理解する。
12	ライフステージと栄養②	新生児から思春期にかけての栄養の重要性について理解する。
13	ライフステージと栄養③	成人・高齢期の栄養上の問題点と生活習慣病との関連についても理解する。
14	栄養素による生体機能調節、疾病と栄養	栄養と免疫や運動パフォーマンス、疾病との関連について理解する。
15	栄養状態の評価	栄養状態の評価の目的と方法について理解する。

科目名	免疫・微生物学	科目ナンバリング	K02C12015
担当者氏名	兒玉 拓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

グローバル社会の進展から種々の新興感染症の拡大が懸念されている。本講義では医療現場で身近に遭遇する感冒等の感染症から近年注目されているデング熱・鳥インフルエンザ等輸入感染症などトピックスを加えながら基礎的な感染症の知識と対策を理解する。また生体防御としての人間の免疫反応や過剰免疫であるアレルギー反応等についての知識も合わせて学習する。

《テキスト》

『ビジュアル微生物学』小田紘著（ニューウェル ヒロカワ）

《参考図書》

『人体の正常構造と機能VII 血液・免疫・内分泌』（日本医事新報社）

《授業の到達目標》

①微生物の種類とその性質について基本的な知識を説明できる。②代表的な微生物とその感染症について理解し説明できる。③「ヒト」の防御反応である免疫について説明できる。④感染症の成り立ち、診断、治療、予防、現状について説明できる。⑤懸念される新興感染症についての知識を獲得する。

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《成績評価の方法》

定期試験70%、平常評価30%（講義における質問への対応、課題への取り組み）なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生体防御（1）	食細胞と自然免疫について理解する。
2	生体防御（2）	リンパ球と獲得免疫について理解する。
3	生体防御（3）	種々の免疫の異常やアレルギー疾患について理解する。
4	生体防御（4）	生体防御に重要なリンパ器官について理解する。
5	微生物学総論	細菌・真菌・原虫・ウイルス等の生物の特徴を理解する。
6	感染症とその診断法	感染源や感染経路、病原体分離診断法の基礎を理解する。
7	感染症の予防とコントロール	感染症に対する対策、治療法について理解する。
8	微生物学各論（1）	グラム陽性球菌等の特徴と治療方法について理解する。
9	微生物学各論（2）	グラム陰性球菌等の特徴と治療方法について理解する。
10	微生物学各論（3）	グラム陰性桿菌等の特徴と治療方法について理解する。
11	微生物学各論（4）	マイコプラズマ・リケッチア等の特徴と治療方法について理解する。
12	微生物学各論（5）	真菌・原虫・寄生虫等の特徴と治療方法について理解する。
13	微生物学各論（6）	飛沫感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。
14	微生物学各論（7）	経口感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。
15	微生物学各論（8）	血液感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。

科目名	看護学概論		科目ナンバリング	K04C11020
担当者氏名	宮島 多映子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ◎ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力			

《授業の概要》

看護を学ぶものとして、国民や社会に看護がどのように捉えられ、発展してきたのか、社会の要請によってどのように変化していくのかを学ぶ。その指標として、人間、環境、健康、看護の枠組みを様々な学問を基に学び、自己の考えを持つ能力を育成する。また、変化する社会と人間の概念が変化する人工知能の発展する中での未来の看護について考察する。

《テキスト》

川村佐和子他編：ナースング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論、メディカ出版

《参考図書》

向井 亜紀：16週—あなたといた幸せな時間 扶桑社  
 三宮 麻由子：鳥が教えてくれた空 集英社文庫  
 鈴木 ひとみ：命をくれたキス 小学館 □  
 高橋 穂世：真紅のバラを37本 日本看護協会出版会  
 シギサワ カヤ：さよならさよなら、またあした 新書館  
 Alex Shearer, 金原 瑞人訳：青空のむこう 求龍堂

《授業の到達目標》

1. 看護の基礎となる概念について理解する。
2. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割を理解する。
3. 看護におけるマネジメントを理解する。
4. 災害看護について理解する。
5. 国際社会における看護の役割について理解する。
6. 看護を行うために必要な学問を理解する。
7. 文献をもとに「人間が生きるということ」を考察できる。

《授業時間外学習》

大学設置基準では、1単位45時間の学習を義務づけています。該当の章は予習しているものとして講義を進めます。この講義は、日々、目にする情報の意味を考え、表現することが大事です。普段、ただ、そこにあるものが、人間や健康および看護にとってどんな意味があるのかを考えることがとても大事です。

《成績評価の方法》

定期試験 90% レポート「人間が生きるということ」10%  
 レポートの課題図書は参考図書の6冊の中の1冊である。  
 レポート課題の詳細は、講義内で説明するが、興味のある1冊を早めに選択しておくことが望ましい。  
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

この講義では「看護」について考えます。教員は「看護の先輩」です。今、みなさんの看護歴が始まりました。答えは一つでない「看護」を一緒に語りましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護への導入	オリエンテーション 看護師のイメージ 健康な日常生活と看護 看護の責務とその広がり
2	看護への導入	看護のねらい 実践科学としての看護 看護実践のための基準 看護の変遷 現代社会における看護のあり方
3	看護の対象とその理解	看護の対象 統合体としての人間 個人、家族、コミュニティ、地域社会 健康障害を持つ対象の理解 ストレスと適応
4	健康と病気	健康・病気の捉え方の変遷 健康に影響を及ぼす要因 看護における健康と病気
5	ライフサイクルと健康	人間の発達 「人間が生きるということ」とは
6	看護における倫理と価値	看護における倫理の必要性 価値とは 道徳的ジレンマと倫理的課題 倫理的課題への対応 倫理的看護実践を行なうために必要なこと
7	看護における倫理と価値	法 の概念 看護実践の職業的および法的規則 医療事故における法的責任
8	看護実践のための理論的根拠	看護理論の分類 看護理論の変遷 ささまざまな看護理論
9	看護実践のための理論的根拠	看護過程とは 看護実践における看護過程の展開
10	看護ケアのマネジメント	看護のマネジメント 質の高い看護ケアとは 医療安全 病院組織
11	保険医療福祉システム	保健・医療・福祉の概念 保健・医療・福祉サービスの提供の場 保健・医療・福祉チーム 保健・医療・福祉におけるケア提供の経済
12	看護の展開と継続性	看護におけるチームアプローチ 看護の継続性
13	災害看護の基礎	災害看護の必要性 災害の定義 災害の分類
14	国際看護	保健医療・看護における国際化と展望 国際協力と看護の展望
15	これからの看護の課題と展望	看護に求められる教育 専門職としての看護組織 社会における看護 社会の要請と看護

科目名	看護理論			科目ナンバリング	K04C11021
担当者氏名	宮島 多映子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力			

《授業の概要》

看護独自の概念枠組み、代表的な看護理論の背景や人間・健康・環境・看護について学び、看護が理論と実践によって発展してきたことを学ぶ。また、自己の看護に対する考えを表現する能力を育成する。

《テキスト》

1. 川村佐和子他編：基礎看護学①看護学概論、メディカ出版
2. F. Nightingale/ 湯楨 ます他訳：看護覚え書—看護であること看護でないこと 現代社

《参考図書》

1. V. Henderson /湯楨 ます他訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版
2. ヨシタケシンスケ：りんごかもしれない ブロンズ新社
3. 道田 泰司他：クリティカル進化(シンカー)論—「OL進化論」で学ぶ思考の技法 北大路書房

《授業の到達目標》

1. 看護の構成要素としての人間、環境、健康、看護を理解できる。
2. 主な看護理論家の理論を理解できる。
3. 看護における理論と実践について理解できる。
4. 文献をもとに、「自己の考える看護」について、考察し、記述できる。

《授業時間外学習》

事前学習は、指示がない場合でもテキストの該当の項目は、行ってきているものとして、講義を進めます。  
 テキストの「F. Nightingale/ 湯楨 ます他訳：看護覚え書—看護であること看護でないこと 現代社」は筆記試験までに読み終えておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験 80% レポート 20%  
 筆記試験は5コマ目、レポート提出は8コマ目に行う。  
 レポート課題は、以下の通りである。  
 「自分の考える看護を他の看護理論と比較して述べよ」  
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

「看護とは何か」「看護の方法」について、すべての看護にかかわる人が考えてきたものです。多くの知を積み重ねて、今の自分の看護理論を表現してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	理論とは	オリエンテーション 理論の定義
2	看護の概念と看護理論の枠組み	用語の定義 理論の種類 理論の説明 理論の分析
3	看護の概念と看護理論の枠組み	看護理論家から見た看護の概念（人間・環境・健康・看護）
4	看護理論の理解	看護理論の歴史と動向
5	看護理論の理解	筆記試験 自己の考える看護
6	代表的な看護理論	ナイチンゲールの理論 ヘンダーソンの理論
7	代表的な看護理論	オレムの理論 ウィーデンバックの理論 トラベルビーの理論 ロイの理論
8	看護に生かす看護理論	看護実践と看護理論
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論 I（生活援助技術）		科目ナンバリング	K04C11023
担当者氏名	西山 忠博、大植 由佳、宮島 多映子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力			

《授業の概要》

看護者が行う技術とは何かを理解した上で、看護を提供するために必要な技術と療養生活を援助するために必要な技術についての基礎知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。

《テキスト》

- 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 茂野香おる
- 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 任 和子

《参考図書》

- 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術：医療情報科学研究所
- 看護技術プラクティス 第3版動画付き：学研プラス
- ナーシングスキル：ELSEVIER

《授業の到達目標》

1. 看護技術の特徴、看護技術の範囲、看護技術の基本原則が分かる。
2. 看護の対象者に、安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基本的な知識が分かる。
3. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基本的な技術が実施できる。
4. 看護師としての倫理的態度を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（60％）
  - 実技試験（20％）
  - レポート・課題（20％）
- 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業時間外学習》

1. 事前にテキストの講義内容部分を予習する。
2. 予習時には、既習学習の形態機能論など講義に必要な知識を復習する。
3. 講義・演習・その後の課題レポートと学習を統合できるよう、復習を必ず行う。

《備考》

実習室は病室と同じと考え、服装、身だしなみを整えた上で入室すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーション技術（講義・演習）	ガイダンス 実習室オリエンテーション コミュニケーションの基礎知識・方法・実施
2	感染防止の技術①（講義・演習）	感染防止の基礎知識 スタンダードプリコーション
3	活動・休息の援助技術①（講義）	基本的活動の基礎知識（体位、体位変換、移動、移乗・移送） ポジショニング 睡眠と休息の援助（援助の基礎知識、援助の実際）
4	活動・休息の援助技術②（演習）	体位変換、移動、移乗・移送の実施
5	環境調整の技術①（講義）	環境調整の基礎知識（療養生活の環境、病室環境のアセスメントと調整） 環境調整の実際（ベッド周囲の環境整備、ベッドメーカー、リネン交換）
6	環境調整の技術②（演習）	ベッドメーカー、リネン交換の実施
7	感染防止の技術②（講義・演習）	洗浄・消毒・滅菌 無菌操作の原理と方法
8	食事援助の技術（講義・演習）	食事の意義 食事援助の基礎知識 食事援助の方法 食事援助の実施
9	学習のまとめ（技術の確認）	学習内容を再確認する
10	排泄援助の技術①（講義）	排泄援助の基礎知識
11	排泄援助の技術②（演習）	排泄援助の実施
12	清潔・衣生活援助技術①（講義）	清潔・衣生活援助の基礎知識 清潔・衣生活の意義・目的・方法（入浴、清拭、足浴、洗髪、寝衣交換）
13	清潔・衣生活援助技術②（演習）	清潔援助（清拭・足浴）の実施
14	清潔・衣生活援助技術③（演習）	清潔援助（洗髪）の実施
15	学習のまとめ	事例を用いた振り返り学習

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習 I		科目ナンバリング	K04C11026
担当者氏名	宮島 多映子、大植 由佳、西山 忠博			
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

医療施設に入院している対象者の環境について知り、対話を通してその人たちの気持ちや生活状況、健康や看護に対する思いを理解する。対象者の意思や権利を尊重したかかわりを通して対象理解を深める。また、対象者の健康上のニーズにあった日常生活援助の方法を見学し、看護専門職としての態度や倫理について学ぶ。

《テキスト》

看護学概論、看護技術論 I で使用したテキスト

《参考図書》

実習前に指示

《授業の到達目標》

- ①対象者が生活している場の環境がわかる。
- ②対象者との関りを通して日常生活状況がわかる。
- ③医療施設で看護師が実践している看護活動について理解できる。
- ④実習を通して振り返りができる。

《授業時間外学習》

「看護学概論」で学んだ看護の対象や生活、健康、環境、看護活動などについて復習し、実習では学んだことの実際を確認できるようにしてください。

《成績評価の方法》

実習要項の実習評価表に基づいて評価を行う。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

事前学習と予防接種など、体調面での準備をして臨みましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	-	内容の詳細は実習要項に掲載する。
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-



《専門教育科目 統合科目 VIII群（看護の統合と実践）》

科目名	基礎ゼミ	科目ナンバリング	K08B11057
担当者氏名	全教員		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力		

《授業の概要》

看護学科における学士力を養うために、コミュニケーションスキル、クリティカルシンキング、スタディスキル、問題解決能力、ソーシャルスキル等の基本的学習技術を習得することを目的とする。

《授業の到達目標》

- 1) ノートテイキング、文献検索、レポートの書き方等の実際を活用して小論文を記述することが出来る。
- 2) コミュニケーションスキルを活かしたグループワークを実践し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 1・2・7週（各3%）、3・4週（15%）、5・6週（15%）、8～12週（各5%）、13・14週（20%）、15週（16%）計100%とし、100点満点で採点する。 ※3～6週及び8～15週は、グループワーク参加点、レポート点、発表内容含む 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス・学習の方法	ガイダンス・看護学科ポリシーについて、大学生活について（健康管理・心の健康管理）、学習の方法（時間管理）
2	コミュニケーション	対人コミュニケーションとアサーティブな人間関係（自己紹介 アサーティブな自己表現）
3	ノートテイキング①	講義とノート（講義）・高校の授業と大学の講義の違いについて・講義の受け方・ノートの取り方・ノートとメタ認知・ノートの構造化
4	ノートテイキング②	講義とノート（演習）
5	文献検索①	資料の探し方、図書館・蔵書検索、インターネット検索、文献検索方法、文献カードの作成
6	文献検索②	兵庫大学図書館所蔵文献検索・その他の文献検索の実際（演習）
7	レポートの書き方①	大学で求められるレポートの書き方
8	グループワークの方法・プレゼンテーション①	グループワークとは、看護カンファレンスとは、グループワークの方法
9	グループワークの方法・プレゼンテーション②	プレゼンテーションとは、スライド作成の方法、プレゼンテーションの方法（講義）・個人の小論文作成について（説明）
10	グループワークの方法・プレゼンテーション③	テーマの決定・グループ単位でプレゼンテーションの準備（文献検索）
11	グループワークの方法・プレゼンテーション④	グループ単位でプレゼンテーションの準備（演習）
12	グループワークの方法・プレゼンテーション⑤	グループ単位でプレゼンテーションの準備（演習）
13	プレゼンテーション発表①	グループ別プレゼンテーション・講評
14	プレゼンテーション発表②	グループ別プレゼンテーション・講評
15	レポートの書き方②	レポート作成・提出

《テキスト》

フレッシュマンセミナーテキスト 大学新入生のための学び方ワークブック（初年次教育テキスト編集委員会）東京電機大学出版局 2009年

《参考図書》

大学 学びのことはじめ—初年次セミナーワークブック，佐藤智明・他（編集），ナカニシヤ出版，新編版 2011年  
 知のツールボックス—新入生援助（フレッシュマンおたすけ）集，専修大学出版企画委員会（編集），専修大学出版局 改訂版 2009年

《授業時間外学習》

講義と演習（グループワーク含む）科目となっており、学習内容も多いため、時間外での学習時間を確保し、計画的な学習作業を進めていくこと。  
 特に演習では、グループで力を合わせて課題に取り組んでいく必要がある。7週目以降は、各自で小論文の作成準備を行うこと。

《備考》

講義と演習によって授業を進めていくため、欠席すると学習内容習得に影響する。欠席しないこと。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論			科目ナンバリング	KTAL41001
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員になることを決意する動機づけがこの授業である。その時々々に教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための資質能力を身につける。また、教職課程履修の意思を再確認し、教師以外の進路についても考察する。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。また、あわせて教師以外の職種に関する進路選択についても、受講生各自の資質との関係で考える機会を提供する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加20%、定期試験50%、ミニテスト30%、これらの評価を総合して評価する。

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之編著 『はじめて学ぶ教職論』(ISBN: 978-4-623-07563-8) ミネルヴァ書房 2017年

《参考図書》

「小・中・高等学校学習指導要領」(文部科学省)  
『解説教育六法』(三省堂)  
『教職論』(宮崎和夫編著) ミネルヴァ書房  
『現代教職論』(土屋基規編著) 学文社  
『教育基礎論・教職論』(唐澤勇編著) 学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等。
2	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
4	教員の資質・能力Ⅰ	教員として求められる基本的な資質や能力について理解する。
5	教員の資質・能力Ⅱ	教員を希望する自己の適正、資質能力について考察する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割Ⅰ	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割Ⅱ	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	講義全体のまとめをする	教師に求められる適性と資質について再度考察すると共に、自己の教職への意欲と適性について再度、省察・確認する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	KTAL41002
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは、(1)人間とは何かを考える、(2)世界教育史に学ぶ、(3)日本の教育の流れを押さえ、これから教師になる者の歴史的立場づけを考える、(4)人権教育の概略を知る、(5)「総合的な学習」を検討しつつ、未来の教育の展望を探る、の諸点である。

《テキスト》

とくには定めず、授業中にプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析でき、それを文章で表現することを目指す。

《授業時間外学習》

学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《成績評価の方法》

授業への参加度（教員の発問に対する口頭および記述式の解答）40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子によりこれを微調整することがある。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育に関する問題意識の出し合い
2	人間とは何かを考える(1)	視聴覚教材鑑賞（前半）
3	人間とは何かを考える(2)	視聴覚教材鑑賞（後半）
4	人間とは何かを考える(3)	ディスカッション
5	世界教育史に学ぶ(1)	筋が通った教育者とは—ペスタロッチが問いかけるもの—
6	世界教育史に学ぶ(2)	教育は時代を反映するもの—モニリアル・システムを考える—
7	特別授業	教育についての集団討論
8	日本教育史に学ぶ(1)	イロハから帝王学まで—手習塾(寺子屋)は近世のフリースクールだった—
9	日本教育史に学ぶ(2)	水道方式—「下から」の教育内容現代化—
10	日本教育史に学ぶ(3)	ゆがんだ能力主義①—「上から」の教育内容現代化—
11	日本教育史に学ぶ(4)	ゆがんだ能力主義②—経済審議会答申から現在まで—
12	人権教育を考える(1)	差別・被差別からの解放をめざす教育
13	人権教育を考える(2)	同和教育から人権教育へ
14	未来の教育への展望	「総合的な学習」が問いかける、「自分で考える人間」づくり
15	本授業の総括	教育とは明日の日本・世界をつくる営み

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	KTAL42004		
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
  - ②課題の提出と完成度 20%
  - ③定期試験 60%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver. 3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原則
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウントビリティと学校評価	・学校アカウントビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）	科目ナンバリング	KTAL42008
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%  
 授業内容の理解 50%

- ・レポートはコメントを付けて返却する
- ・最終回の「まとめ」は、全体的な講評を伝える

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	いじめの被害者・加害者への理解と対応	いじめは、学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場でのいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える
9	特別支援教育を必要とする子どもたち	本人が努力しているにも関わらず、発達に凸凹があり、できることとできないことの差が大きく日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し、支援する方法を学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返し、今後活かすべきことは何かを考える

《テキスト》

教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために 桜井・斎藤・森平 北樹出版

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。